

劇団 820 製作所 第17回 本公演

マゲカルシアター参加

なぜけもののかさはにがいのか

17歳たちの光。

17歳たちの血。

17歳たちの劇。



作・演出

波田野淳紘

神奈川県立青少年センター・スタジオ HIKARI

2024年 5月3日(金・祝) — 6日(月・振休)

6ステージ+鑑賞教室1ステージ

なぜけもののわかさはにがいのか

[出演]

秋葉 舞滝子 (SPIRAL MOON)

植村 悠人

江花 実里 (架空量)

亀尾 建史

小山 利英

こんの かつゆき (劇団コピュラ)

西 凜太郎

馬場 玲乃 (Halo G)

モハメディ 亜沙南

渡邊 美玖 (劇団ミックスドッグス)

[アンサンブル]

横浜芸術高等専修学校・声優コース 有志

柴野 梓実 (いかだ演劇部) ほか

舞台監督 | にしわき まさと

照明 | 桐山 詠二

音響 | 齋藤 瑠美子

音楽 | itsuki

宣伝美術 | 来住 真太

広報映像制作 | こんの かつゆき

制作 | 薄田 菜々子

稽古場補佐 | 御法川 わちこ

WEB | 亀尾 建史

Members | 波田野 淳紘、加藤 好昭、千葉 恵佑、
亀尾 建史、御法川 わちこ、朝廣 亮二

協力 | 大沢事務所、SPIRAL MOON、架空量、劇団コピュラ、
劇団ミックスドッグス、- 森ノ音 -、Halo G、マノンラ
ヴァンド、いかだ演劇部、育伸向学舎、城戸啓佑、シ
バイエンジン

特別協力 | 横浜芸術高等専修学校

企画・製作 | 劇団 820 製作所

なぜけもののわかさはにがいのか上演委員会

主催 | 神奈川県、劇団 820 製作所

[会場]



神奈川県立青少年センター

スタジオ HIKARI (センター内 2 階)

神奈川県横浜市西区紅葉ヶ丘 9 - 1

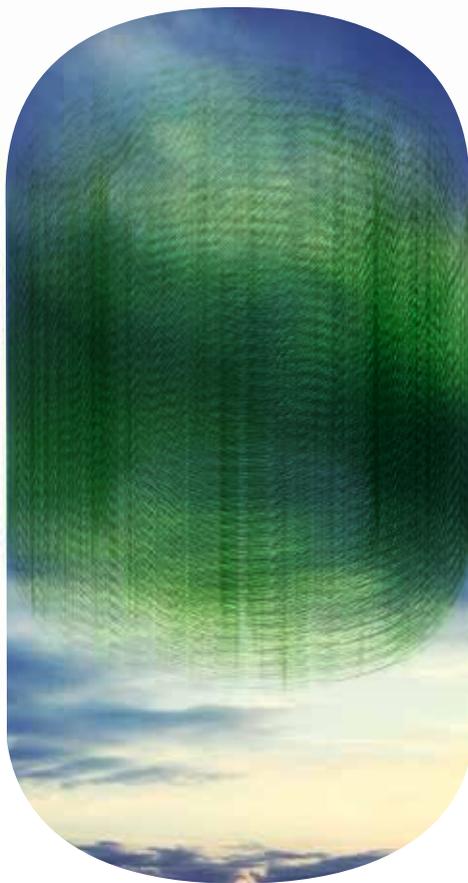
※ JR 根岸線「桜木町駅」北改札西口から徒歩約 8 分

※ 横浜市営地下鉄線「桜木町駅」から徒歩約 10 分

※ 京浜急行線「日ノ出町駅」から徒歩約 13 分

※ みなとみらい線「みなとみらい駅」から徒歩約 20 分

この社会に生きるわたしたちと同じように、この手で「世界は変わり得る」かどうかの確信は、彼らにもありません。でも、17歳は駆けだす生き物です。どんなにぶざまにすっ転んだとしても。教室の劇を上演します。わたしたちの未来を、よりよいものへと成形していくために。17歳の心をもって。



[Note]

この劇に登場する人物は、全員が17歳です。

彼らは時に笑い、嘆き、肩を組み、すれ違い、恫喝や扇動と直面し、悪意に触れ、議論し、迷い、息のしやすい場所を求めて駆けだしていきま

[公演日程] 6ステージ+鑑賞教室1ステージ

2024年

5月3日(金・祝) ~ 6日(月・振休)

公演日	昼公演	夜公演
5/3 (金・祝)	☆13:00 (公開ゲネプロ・鑑賞教室)	18:00
5/4 (土)	13:00	18:00
5/5 (日)	★13:00	18:00
5/6 (月・振休)	★13:00	

※受付開始は開演時間の45分前、開場は30分前です。

※未就学児の入場はご遠慮ください。

※開演時間を過ぎますと入場をお待ちいただく場合がございます。

☆【18歳以下対象】公開ゲネプロ

集まれけもの鑑賞教室

5月3日(金・祝) 13:00の回は「鑑賞教室」として、

18歳以下の方を無料でご招待します(予約必須)。

予約フォームまたはメールよりご予約ください。

※受付に年齢を確認できるものをお持ちください。

引率の方に限り、一般2,000円で承ります。

★アフターパフォーマンス

5月5日(日) 13:00 および 6日(月・振休) 13:00

の回の本編上演後に、「いかだ演劇部 有志」による短編作品『わたしたちも年をとるのか』(10~15分程度)の上演を行います。

●いかだ演劇部は、学校の垣根をこえて活動する演劇部です。参加対象は「高校生」、「中学生」、もしくは「心に中学生の自分を住まわしている人」。

[チケット] (日時指定・自由席)

一般 = 3,500円 18歳以下 = 1,000円

※「18歳以下」券をご利用の方は、受付に確認できるものをお持ちください。

※受付でのお支払いは現金のみの取り扱いです。

[取扱い・お問い合わせ]

劇団 820 製作所

[WEB] <http://820-haniwa.com/>

(予約フォームあり)

[MAIL] info@820-haniwa.com

メールでのご予約の際は、件名を「チケット予約」とし、(1)氏名、(2)日時、(3)券種・枚数、(4)ご連絡先(メールアドレス、電話番号)をご明記ください。

予約フォーム



2004年に旗揚げ。読み方は「はにわせいさくしよ」。東京圏を活動の拠点として、演劇の公演を重ねる。キャッチフレーズは「本当はそこにあるおとぎ話」。社会的事象から個人のひそやかな祈りまで、目に見えない場所に生起する感情や物語を丁寧にすくいあげる

<http://820-haniwa.com/>